

岡崎市議会議長 様

支出番号

17

会派名

自民清風会

代表者名

中根 武彦

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和6年3月29日提出

活動年月日	令和6年1月25日（木）～1月26日（金）	
氏名	杉浦久直 廣重 敦	
用務先 及び 内 容	1	用務先 島根県奥出雲町
	1月26日	内 容 ロケツーリズムによる観光振興について
	2	
	3	
備 考		

政策調査視察調査報告書

報告者：廣重敦

視察日	令和6年1月26日（金）	視察地	島根県奥出雲町
視察内容	ロケツーリズムによる観光振興について		
視察者	杉浦久直、廣重敦		

視察目的：かつては松本清張の小説「砂の器」の物語の鍵となる場所として登場し、そのインパクトのある映像シーンから今でもファンが訪れ、最近では昨年の日曜劇場「VIVANT」のヒットも手伝い、**ロケ地としてにぎわう奥出雲町**。この地は古くからたたらが盛んで、一級品の玉鋼を材料とした**日本刀づくり**でも知られていることから、それを武器にロケ誘致を行うなど、**ストーリー性のあるロケツーリズム**に熱心に取り組んでおり、アフター大河に向け観光産業に力を入れていく本市の参考とする。



開催場所：奥出雲町仁多庁舎

説明者：奥出雲町議会 景山議長、定住産業課 高橋課長、渡部課長補佐、
議会事務局 秋田事務局長、山田主事、観光協会 遠藤事務局次長

タイトル：ロケツーリズムによる観光振興について

1. 奥出雲町の概要

- ・島根県東部の山間地域に位置し、**町全体が豪雪地帯**となっているが、このエリアは豊かな自然に恵まれていることから**比婆道後帝釈国定公園に指定**されている。
- ・平成17年3月31日に仁多郡仁多町、横田町が新設合併し、奥出雲町が発足。
- ・面積368.01㎢、令和5年4月1日時点での人口11,430人、世帯数4,636世帯。
- ・良質な砂鉄と粘土、森の木々と川の水を使い、**たたらと呼ばれる日本古来の製鉄技術**を極め、**国の選定保存技術**として、全国で唯一守り続けている**日刀保たたら**がある。
- ・平成26年、町域全体に分布する製鉄場跡と棚田が「**奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観**」の名称で**重要文化的景観として選定**されている。
- ・平成28年、「出雲国たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」として、安木市、雲南市とともに**日本遺産に認定**された。
- ・奥出雲の棚田は、製鉄に必要な砂鉄と木炭を確保するため山を切り崩し、その跡地の地形を棚田に転用した**二次産業(工業)から一次産業(農業)への変遷**を物語るもので、農林水産省「**つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～**」にも認定されている。

2. ロケツーリズムによる観光振興について

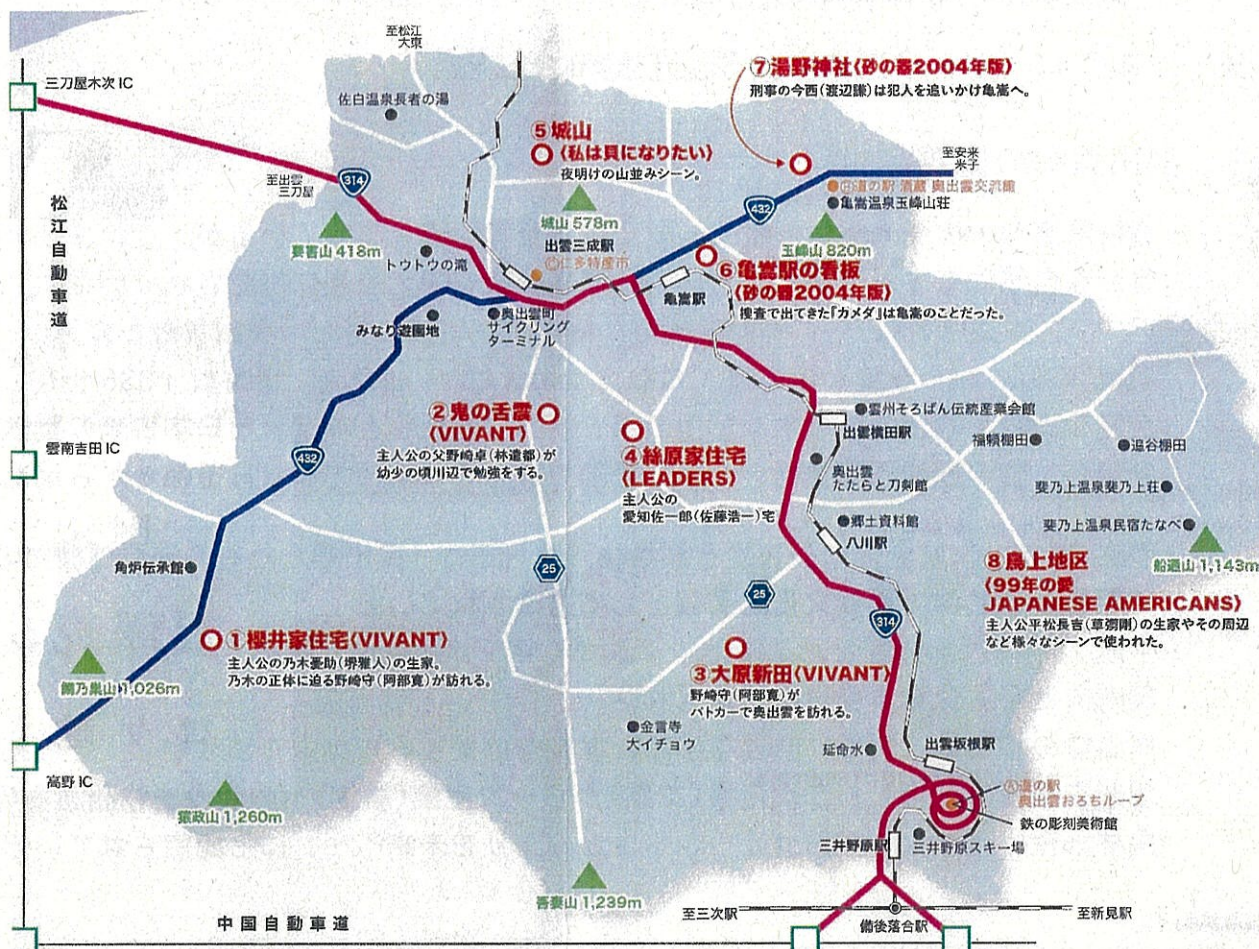
(1) 奥出雲の特長…景山議長

- ・ 亀嵩温泉、佐白温泉、斐乃上温泉、3つの**美肌温泉**があり、中国山地に位置するが、松江、出雲からは1時間、中国自動車道、松江自動車道が通っているため交通の便はよく、**広島、岡山からも日帰り観光のエリア**。
- ・ 米、牛、そばが主な産物になるが、**仁多米はきれいな水、寒暖差、完熟した牛糞堆肥に育まれたこの地の自慢の逸品**で、昨年12月新潟県で行われた「第25回米・食味分析鑑定コンクール国際大会」で、**7年連続13回目の金賞**を受賞。
西の横綱と称され、関東以西で人気が高く、5kg4,500円で売れる。
- ・ **出雲神話発祥の地**であり、これまでも「砂の器」はじめいろいろなロケに使用され、ロケ地巡りはあったが、**VIVANTのヒットにより日によっては100倍の人手**があり、戸惑っている部分もある。
- ・ たたら製鉄の営みを通じて、土、森、牛を活かし、将来にわたって人々に恵みをもたらす持続可能な農業を生み出しており、**2019年日本農業遺産に認定**されている。

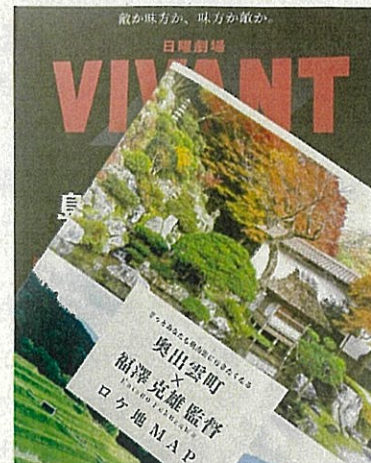


(2) フィルムコミッション事業

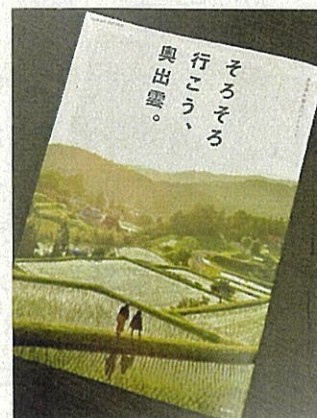
- ・ 奥出雲町として当該組織はないが、**20年前に島根県のフィルムコミッションが出来**、それから、「白い船」「砂の器 2004」「私は貝になりたい」「たたら侍」等、雲南市含め**オール島根**で取り組んでおり、奥出雲では「JAPANESE AMERICANS」、「LEADERS」といったロケが行われたが、武器は**たたら製鉄、鉄師**といった**ここにだけある本物**。
- ・ 一方、「砂の器」の問い合わせは今でもあるが、当時の風景が残っていない。



- ・日曜劇場「VIVANT」の大ヒットで昨年来脚光を浴びているが、奥出雲町がここまでいろいろな作品の舞台に選ばれているのは福澤監督によるもの。20年前の「砂の器 2004」がきっかけ、スケジュールの関係もあり京都ロケでのみで済ませる予定であったのを、「奥出雲を外されては困る」、とにかく一度来て欲しい、と福澤監督にお願いしたところ、**景観はもちろん、お米が美味しいのに感激され、それ以降多くの福澤作品のロケ地として使用してくれている。**



- ・「VIVANT」の影響はすさまじく、主人公の生家となった桜井家は例年年間訪問客が5千人程度であったのが、放映開始の9月から月間5千人を超え、11月は8千人に上り、臨時でテントブースを設置。**明らかにオーバーツーリズム。**



(3) 身の丈に合った観光へのシフト…そろそろ行こう、奥出雲

- ・**極端に観光客が増えても町で受け入れきれない。**
たたらをはじめ貴重な体験を出来る環境にあることから、**体験する**(とうふ、湯葉、そば打ち)、**観光する**、**温泉に泊まる**、それぞれのコンテンツには自信があるため、**リピーターとしてまた来てもらえるように、おもてなしを尽くしていく。**

(4) 観光振興を進めていく上での課題

- ・広島、岡山といったところからの**日帰り観光スポット**になってしまうため、**立ち寄り勝負しないといけない部分が弱い。**(特産市場、温泉)
- ・出雲神話発祥の地であり、旧町合併の際、**神話の町**を打ち出したが、**木次線を上手く使えていない。**
- ・多くの観光客が訪れた時の**渋滞問題**、**トイレ問題**、それが**地域住民の生活に影響する。**

3. 質疑応答…主なもの

- ・福澤監督に気に入られたところが、多くの作品のロケ地になったポイントであったことがよくわかったが、一番の決め手は何だとお考えか？

→**スタッフの健康**を気遣われており、**食べ物へのこだわり**が強く、仁多米の塩むすび、和牛、野菜がとにかく美味しい。撮影で使った仁多もちも。**ケータリングも地元の主婦の持ち込み**で、冷えたロケ弁に慣れた身からすると、**おもてなしが素晴らしかった、との理由。**



- ・**おもてなしが行き届いている**という印象は我々も持ったが何か理由はあるのか？
→歴史的にこの辺りは、**お殿様に対してのおもてなし文化**が根付いていると考える。
藩主がお越しになる時は、**鉄師とその配下及び近隣の農家すべての家を藩主御一行百数十名のために明け渡し**、御紋入りの食器を用意し、**米や魚、山菜などを提供し、もてなしたと伝わっている。**

- ・「VIVANT」による経済効果はどれくらいと見込んでいるか？

→入込客数は正式ではないが、コロナ前 82 万人くらいであったのが、**去年は初めて 90 万人を突破**、92 万人に届いている見込み。

ただ、**経済効果はまだ弱く、宿泊者も増えているが満室ではない**。宿泊につながる観光戦略として**五感に訴える体験型のコンテンツ**を充実させたい。

- ・日本農業遺産「**たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業**」は今後、どのように観光に活かしていくのか？

→この地方ならではの武器であり強みであるため、**環境や生物多様性の素晴らしさ**も訴求しながら**世界農業遺産登録**を目指している。

4. 所感

- ・初めてこの地域を訪れたが、いろいろなロケで使われるのも納得の**素晴らしい場所**だが、公共交通で来たため、大変不便なところという印象が強かった。しかし、**車を使うと広島や岡山からも日帰り出来る位置で、いろいろな可能性**を感じた。

- ・事前の知識では、**たたら製鉄**くらいしか特長は無いと思っていたが、東の魚沼、西の**仁多米**と言われるコシヒカリの逸品があること、そば、牛肉や野菜も大変美味しく、**美肌温泉も3カ所**あるなど観光客に喜んでもらえるコンテンツにあふれており、それが一度ロケに来た映画監督を**何度も引き寄せている**という言葉が印象に残った。本市で「乱歩の幻影」のロケを行った秋山監督も、岡崎には美味しいお店が沢山あるのでまた来たい、と言ってくれたり、京都のお花の先生が岡崎で食べたウナギが忘れられず、お弟子さんを連れて訪れて来られたり、しばらく**滞在されるキーマンを虜にするお店に足を運んでもらう工夫**は欠かせない。ロケツーリズムで多くの方が来られるものの、奥出雲町も日帰り観光客が多く、宿泊客の獲得という点では苦労しているようで、**体験型のイベントを増やすことで滞在時間を延ばし宿泊につなぐ**ことを考えており、これは**本市でもアイデアを募るべき**である。泊まっていただければ、この地域の強みであるおもてなし文化を肌で感じることで、ファンが増えると思われる。福澤監督が、「地元の方は奥出雲の良さに気付いていない」と言われていたらしいが、**いろいろなところでロケを経験している監督のような人の意見**は、観光行政に関わる人は是非参考にすべきだと思う。

【同行者の所感】

- ・奥出雲町までの道のりは遥かに遠い。たまたま雪の日で交通ダイヤが乱れて到着が遅れたが、通常時でも、首都圏、中京圏はもとより、関西圏からも大変な行程となる。それでも訪れさせる魅力を持った土地と言える。
- ・ロケツーリズムはその魅力を製作者側に気づいてもらい、取り上げようという気にさせることが重要であり、奥出雲町は情熱を持った職員が、福澤監督に接触したことが成功事例へとつながっているが、そこには、過去の「砂の器」という資産、また、たたら製鉄、仁多米、循環型農業という、大事に伝え守ってきた地域の資源がある。
- ・ロケツーリズムでの観光を一過性のものとせず、繰り返し訪れてもらうきっかけとして活用することが肝要であり、奥出雲町もそうした方向での取り組みが模索されているところである。

- ・岡崎市も令和5年は「どうする家康」などでの観光客誘致に力を入れてきた。それをきっかけとして繰り返し本市に訪れていただくために、地域の魅力を磨き上げないといけない。
- ・岡崎市の魅力は地域ならではの歴史、風土であり、それに基づく農産物、食文化、景観とそれらを魅力的なものとするストーリーが重要である。
- ・奥出雲町には、たたら製鉄と資源循環型農業というストーリーと、魅力的な食材、情熱を持って発信する人がいる。
- ・本市も観光を産業として成立させていくために、行政としてそうした体制をバックアップしていくことが重要である。